

日本テレマン協会

2009年度 社会的活動報告

The marriage of social and cultural application

～ 社会と対話する演奏会を目指して…～



TELEMANN INSTITUTE JAPAN



近畿1400万人の命を支える琵琶湖の水。この冊子は水質浄化するために刈り取られた「西の湖」の葦(よし)を使用しています。この冊子一冊で琵琶湖の水、約400リットルが浄化されたこととなります。

The marriage of social and cultural application ～ 社会と対話する演奏会を目指して…～

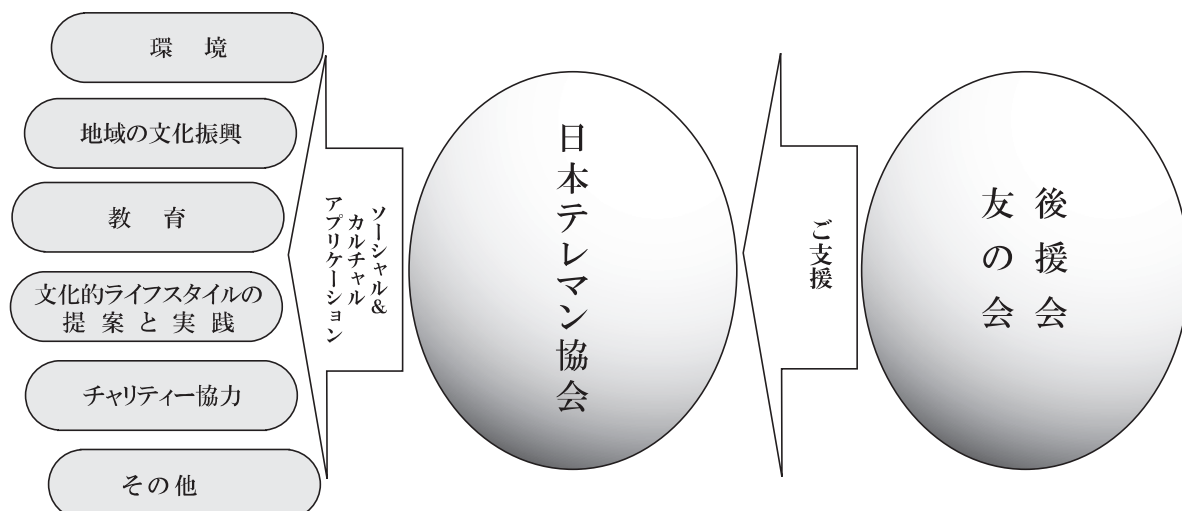
日本テレマン協会のめざすソーシャル&カルチャル・アプリケーション

日本テレマン協会は常に最新の試みと、新しい価値観の創造をめざす文化活動を続けてきました。財界サロンなどを舞台にした室内楽、教会聖堂での宗教音楽の演奏会にはじまり、ベートーヴェンのテンポ指示を忠実に守った「一〇〇人の第九」(世界初の試み)、バロック楽器による演奏、数々の本邦初演、そしてベトナムでのコンサート、字幕、トーク付コンサート、講談とのコラボレーション…などその試みのバリエーションの広さは他の追随を許していません。またその殆どが日本初の試みであり、後に他の団体の活動に大きな影響を与えてきたことは皆さんも良くご存知のことと思われまます。

こういった活動の根底には「より幅広い聴衆に音楽の楽しさを知ってもらいたい」という思いがあり、その思いは創設以来47年以上経った現在でも受け継がれ、更に進化しつつあるといえましよう。特に協会は今、文化の団体が「社会に対して出来ること」、「国の繁栄に貢献できること」…演奏会を通して聴衆だけではなく、広くその市民、そして社会そのものとどうすれば対話ができるのかを追及しようと考えております。しかしそれは一方で「営業」という視点から離れた場合も少なくはありません。そういった研究と実践を重ね活動を続けていけるのは、我々の活動に対し深く理解して下さる支援団体があるからに他なりません。

そこで今年度も冊子の形で、ご支援くださった皆様に我々の社会的な活動＝「ソーシャル&カルチャル・アプリケーション」についてご報告をさせていただくことに致しました。この冊子が皆様のよりいっそうのご理解を深め、末永いご支援をいただける「パスポート」となることを願ってやみません。

日本テレマン協会
日本テレマン協会後援会



◎2009年度における協会の活動を支えてくださった皆様

・日本テレマン協会後援会

- 会 長:野村 明雄(大阪ガス株式会社 相談役)
 副会長:浦上 敏臣(住友生命保険相互株式会社 相談役)
 渡辺 克信(朝日放送株式会社 代表取締役社長)
 理 事:鍛冶 舍 巧(パナソニック株式会社 常務役員)
 原 真 一(コーナン建設株式会社 代表取締役社長)
 藤田 隆(大阪音楽大学 教授)
 宮島 登美子(T M S代表)
 小野 敏夫(NPO法人クラシック音楽興隆会 理事長)
 砂野 耕一(川崎重工株式会社 社友)
 室町 鐘 緒(株式会社三菱東京UFJ銀行 名誉顧問)
 山口 昌 紀(近畿日本鉄道株式会社 取締役会長)
 和田 馨(関西電力株式会社 執行役員)
 井上 礼之(ダイキン工業株式会社 取締役会長兼CEO)
 森川 敏雄(株式会社三井住友銀行 特別顧問)
 佐野 吉彦(安井建築設計事務所 代表取締役社長)
 羅 辰 雄(株式会社蓬萊 代表取締役社長)
 入谷 泰生(日本クルーズ客船株式会社 代表取締役社長)
 鳥井 信吾(サントリーホールディングス株式会社 代表取締役副社長)
 常務理事:中原 博人(日本テレマン協会)
 顧 問:井戸 敏三(兵庫県知事)
 荒井 正吾(奈良県知事)
 平松 邦夫(大阪市長)
 矢田 立郎(神戸市長)
 アレクサンダー・オルブリッヒ(ドイツ総領事)
 パトリック・スメラー(アメリカ総領事)
 クリス・スチュワート(イギリス総領事)
 フリップ・ジャンヴィエ・カミヤマ(フランス総領事)
 マルガリータ・ボット(オランダ総領事)
 D.v.エークハウト(ベルギー総領事)
 プロホロブ・イワン(ロシア総領事)
 ステファノ・ザニーニ(イタリア総領事)
 呉 榮 煥(駐大阪大韓民国総領事)
 小松 左京(作家)
 陳 舜 臣(作家)
 多川 俊映(興福寺貫首)
 鶴澤 寛治(人間国宝・三味線奏者)
 ロニー・アレキサンダー(神戸大学大学院教授)
 監 事:稲畑 勝雄(稲畑産業 取締役 相談役)
 :杉浦 正(共和コーポレーション株式会社 代表取締役)
 後援会事務局長代行:木村 正秀(日本テレマン協会)

法人会員

サントリーホールディングス(株)	住友生命保険相互会社
朝日放送(株)	パナソニック(株)
ダイキン工業(株)	(株)三井住友銀行
(株)三菱東京UFJ銀行	山名酒造(株)
ロックペイント(株)	浅井整形外科
関西電力(株)	大阪ガス(株)
ムジカティー	(株)竹中工務店
稲畑産業(株)	(株)大林組
武田薬品工業(株)	近畿日本鉄道(株)
(合名)丹陽商會	ニッセイ同和損害保険(株)
コーナン建設(株)	(株)二口印刷
(株)大丸	日本生命保険相互会社
(株)損害保険ジャパン	(株)安井建築設計事務所
パナソニック電工(株)	情報技術開発(株)
東京海上日動火災保険(株)	(学)武庫からたち幼稚園
日本郵船(株)	新コスモス電機(株)
讀賣テレビ放送(株)	愛知時計電機(株)大阪支店
(株)博報堂関西支社	(株)IHI関西支社
(株)大広	UCC上島珈琲(株)
テレビ大阪(株)	三洋電機(株)
中井エンジニアリング(株)	関西テレビ放送(株)
(株)ロイヤルホテル	今津建設(株)
大阪ターミナルビル(株)	JFEエンジニアリング大阪支社
(株)エンポウ	(株)きんでん
(株)読売連合広告社	矢崎総業大阪本社
千寿製薬(株)	三幸メリヤス(株)
三菱電機関西支社	(医)中野クリニック
(株)カネカ	(有)神戸楽譜
JFEスチール(株)	
日本クルーズ客船(株)	
桜宮ゴルフクラブ(株)	

東京法人会員

エフエックスコーポレーション

個人会員

岡本 武雄	小西 信一郎
北山 靖子	塩田 邦博
阿部 牧郎	藤田 直照
川岸 弘賢	北浦 告三
小島 百合子	藤田 興二
小川 寛	黒川 悦子
原 眞一	浅沼 健一
高 仁宝	羅 辰雄
橋本 公宏	浜野 りさ
宮本 一	三木 邦夫
久保井 潔	小林 誠
西川 賢	高田 満國
横川 忍	松本 好史
南 茂夫	田中 久善
倉智 貴美子	延 敏恵
三葉 民雄	平田 キヨ
高橋 香	大西 淑子
ロニー・アレキサンダー	仲窪 菜穂子
延 秀恵	三好 具子
長濱 一郎	安達 政恭
浜辺 正昭	矢野 勝之
越田 重雄	湯尾 弘司
竹澤 代資一	杉浦 正
吉田 好道	大西 國忠
米沢 康	里見 悦子
和久 公子	直田 春夫
岩田 由孝	中村 祥大
山本 三千代	有賀 熙雄
吉田 朋代	中川 淳一
石村 孝夫	上田 譲
信楽 義彦	
内藤 裕江	
廣川 信一	
薄井 一美	
野村 明雄	

東京個人会員

小野 敏夫	小野 久恵
中島 久仁子	渡辺 佳代子
堀田 美喜	山下 和夫
伊藤 俊久	藤枝 幸子
石井 ふみ子	有菌 延子
木下 新九郎	木下 弘子
阿部 秀雄	藤島 ひろ美
田中 佐代	

<敬称略・順不同>

2009年度版
日本テレマン協会
Social & Cultural Application

CONTENTS

1：環境

- 1-1 琵琶湖水質浄化の紙（＝レイクパピルス）の使用 7

2：地域の文化振興

- 2-1 講談と室内楽によるコラボレーション「音楽絵巻」 8
2-2 うえまちコンサート 11
2-3 平野区の「第九」 12
2-4 近江八幡市の文化施設を利用した活性化事業..... 12

3：教育

- 3-1 日本テレマン協会の学校公演..... 13
3-2 大阪市ユースオーケストラの指導・育成..... 16
3-3 アマチュア団体の指導・育成..... 16
3-4 NEC古楽レクチャー..... 16

4：文化的ライフスタイルの提案と実践

- 4-1 いずみホールエリアの活性化モデルと淀屋橋WESTの情報発信..... 17
4-2 大大阪レトロナイト事業としての活動..... 18

5：チャリティー協力..... 19

6：その他

- 6-1 京都国立博物館におけるコンサート..... 20

1：環境

1-1 琵琶湖水質浄化の紙（＝レイクパピルス）の使用

2000年より日本テレマン協会では、主な主催公演のチラシ、プログラムに琵琶湖の水質浄化を目的とする紙「レイクパピルス」を使用してきた。2000年当初はその企画が新聞・ラジオ・テレビで大きく取り上げられ、「環境」などをテーマに社会貢献という姿勢をいち早く示した演奏団体として挙手することに成功した。（参考：2000年4月26日 朝日新聞）



2009年度におけるレイクパピルスの使用は以下の通りである。

1：プログラムの使用

- ・一部につき400リットルの浄化
- ・今年度はマンスリーコンサートに7回、東京定期演奏会に6回使用
- ・合計4990部作成
- ・1,996,000リットル（1996トン）を浄化

2：チラシの使用

- ・一部につき200リットルの浄化
- ・今年度はマンスリーコンサートに6回と教会音楽シリーズに3回使用
- ・合計29,500部
- ・合計5,900,000リットル（5900トン）を浄化

3：「2008年度社会的活動報告」の表紙

- ・一部につき200リットルの浄化
- ・550部印刷
- ・合計110,000リットル（110トン）

4：2009年度に浄化した総計

- ・8006トン

2009年度は合計で8006トンの水を浄化したという結果になった。昨年度の7194トンより数字を上げることが出来た。これはレイクパピルスの浄化の性能の向上とともに、プログラムやチラシの内容を早期に決定するようスタッフ全員が心がけ、紙が乾燥しにくいというレイクパピルスの欠点をカバー出来たためだと考えている。

印刷物が「環境」というテーマを抱えているという認識を、これからも全てのスタッフが更に強くもち行動するよう今後とも意識の向上、継続、更なる指導の強化をすすめてゆく予定である。

2：地域の文化振興

2-1 講談と室内楽によるコラボレーション「音楽絵巻」

地域の郷土史家などに直接取材をし、それを創作台本にして音楽をおりませる「音楽絵巻」という企画。主に講談などの日本の古典芸能と室内楽が共演。郷土史を見直し、地域住民とともに新たな発見をめざす完全なオーダーメイドのコンサートである。

(参考：2009年8月21日経新聞記事)



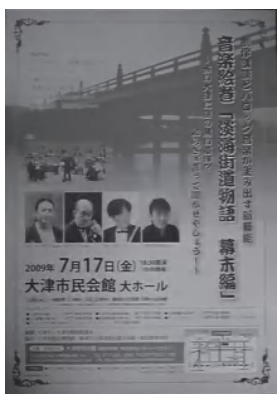
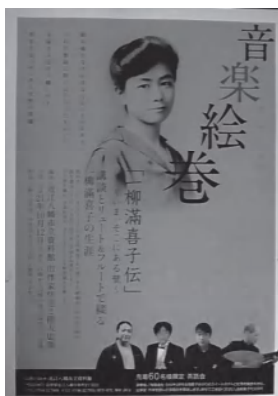
この企画がスタートしたのは2002年だが、その後各地における認知度も高くなり、これまでに60公演以上（音楽絵巻としての講談は45作品以上。講談としては70作を超える）が催されてきた。企画自体は演奏会のみならず「観光客を集めた町角ウォーク」（*「追記：講談による文化振興」の項を参照）など歴史を通しての町の活性化、観光などのプランニングにも寄与しており、音楽団体の企画の枠を超えつつもある。またこれらの台本はすべて著作権をフリーとしており、二次利用、三次利用にバリアをもうけにくくしている。結果公演当日に冊子を配布するなど、地域に「創作の魅力」を形として残すことに成功している。学校の副読本や旅の紹介など、その利用は今後さらに発展していくと思われる。

2009年度の公演詳細は以下の通りである。

- ・2009年6月 有馬・念仏寺：兵庫：講談と室内楽公演「小さな島国のオルガン」
- ・2009年7月 大津市市民会館：滋賀：音楽絵巻「淡海街道物語」
- ・2009年10月 近江八幡市立資料館：滋賀：音楽絵巻「一柳満喜子伝」
- ・2009年10月 伊賀上野：三重：講談ウォーク「筒井定次」「藤堂高虎」ほか

講談・朗読コラボレーション公演及び地域活性化講談公演これまでの履歴

- ・2002年3月 安土文芸セミナリオ：滋賀：音楽絵巻「信長の聴いた音楽」
- ・2002年5月 神戸新聞松方ホール：兵庫：「メサイア」(日本テレマン協会公演)
- ・2002年6月 大阪電気通信大学特別講座：講談「ヘンデル一代記」
- ・2002年6月 高槻市現代芸術劇場：大阪：音楽絵巻「ヘンデル一代記」
- ・2002年8月 石川県立音楽堂：石川：音楽絵巻「利家の聴いた音楽」
- ・2002年11月 尼崎市近松記念祭：兵庫：講談「国姓爺合戦」
- ・2002年11月 丹波国際音楽祭企画：講談「走れメロス」「魔王」
- ・2003年2月 柏原高等学校：兵庫：講談「おさん茂兵衛」
- ・2003年3月 鳳鳴高校：兵庫：講談「おさん茂兵衛」
- ・2003年6月 貝塚市コスモシアター：大阪：モーツァルトVSベートーヴェン
- ・2003年7月 大阪電気通信大学特別講座：講談「ヴィヴァルディー代記」
- ・2003年7月 新宮市市民会館：和歌山：音楽絵巻「西村伊作」
- ・2003年11月 秋篠音楽堂：奈良：クララ・シューマンによる「ショパンとリスト」
- ・2004年4月 神戸市立葺合高校：兵庫：講談付き学校公演
- ・2004年5月 大阪電気通信大学特別講座：講談「バッハ一代記」
- ・2004年7月 大阪倶楽部：大阪：大阪新音企画・音楽絵巻「近代文学散歩」
- ・2004年9月 神戸新聞松方ホール：兵庫：音楽絵巻「アマデウス」
- ・2004年10月 熊野市市民会館：三重：音楽絵巻「源平盛衰記」熊野古道編
- ・2004年10月 湖東町(現東近江市)：滋賀：音楽絵巻「湖東商人銘々伝」
- ・2004年11月 姫路東中学校：兵庫：講談付き学校公演
- ・2004年11月 東京国立博物館：東京：音楽絵巻「森鷗外」
- ・2004年12月 播磨町教育委員会：兵庫：音楽絵巻「漂泊」(講談「ジョセフ彦」)
- ・2004年12月 住吉区：大阪：音楽絵巻「熊野街道」
- ・2005年1月 日本郵船「飛鳥」オセアニアクルーズ：音楽絵巻「漂泊」ほか
- ・2005年2月 近江八幡市民会館：滋賀：音楽絵巻「心に華開く時」山田良定
- ・2005年2月 大和高田市さざんかホール：奈良：音楽絵巻「義経の七つ石」
- ・2005年4月 伊賀上野市民会館：三重：音楽絵巻「荒木又右衛門」
- ・2005年5月 大江山町：京都：世界鬼学会講演・講談「大江山異聞」
- ・2005年9月 高知県グリーンホール：高知：音楽絵巻「山内一豊」土佐編



- ・2005年11月 東京国立博物館：東京：葛飾北斎展企画・「真曾我兄弟」ほか2話
- ・2006年 1月 山東町ルッチプラザ：滋賀：音楽絵巻「石田三成」
- ・2006年 3月 小野市エクラ：兵庫：音楽絵巻「長祿の変」
- ・2006年 7月 金光八尾高校：大阪：講談付き学校公演
- ・2006年 7月 三鷹市風のホール：東京：音楽絵巻「新・功名が辻」
- ・2006年 7月 掛川市シオーネ：静岡：音楽絵巻「山内一豊」掛川編
- ・2006年 7月 日本郵船「飛鳥Ⅱ」カムチャツカクルーズ：音楽絵巻「ある日の大黒屋光太夫」
- ・2006年 9月 大阪市役所：大阪：音楽絵巻「モーツァルト」
- ・2006年10月 羽曳野市リックはびきの：大阪：音楽絵巻「源氏三代記異聞」
- ・2006年10月 東郷町：愛知：音楽絵巻「とうごう六景」
- ・2006年10月 名張市青少年センター：三重：音楽絵巻「藤堂高吉公一代記」
- ・2007年 2月 NECマイタウンコンサート：福岡：九州交響楽団共演
- ・2007年 4月 横須賀芸術劇場：神奈川：音楽絵巻「三浦一族記異聞」
- ・2007年 9月 びわこビジターズビューロー（開催地は横浜県民ホール）：音楽絵巻「信長が愛した音楽」
- ・2007年 9月 大東市サーティーホール：大阪：音楽絵巻「ぶらり大東今むかし」
- ・2007年 9月 伊丹ホール：兵庫：宝塚西高等学校音楽鑑賞会
- ・2007年11月 三田市総合文化センター：兵庫：三田西陵高校音楽鑑賞会
- ・2007年11月 天理南中学校：奈良：文化祭イベント
- ・2008年 3月 小野市エクラ：兵庫：音楽絵巻「加古川筋一揆」
- ・2008年 5月 安土文芸セミナーオ：滋賀：音楽絵巻「信長が愛した音楽」
- ・2008年 6月 神河町グリンデルホール：兵庫：神河音楽絵巻「銀の馬車道今むかし」
- ・2008年10月 伊賀上野城天守閣：三重：音楽絵巻「藤堂高虎」
- ・2008年10月 (社)彦根観光協会（会場は彦根城博物館 能舞台）
滋賀：彦根音楽絵巻「開国物語 井伊直弼外伝」
- ・2008年10月 大阪商工会議所（会場はフジハラビル）：大阪：音楽絵巻「フジハラビル物語」
- ・2008年10月 守山市民ホール：滋賀：守山音楽絵巻「人ゆえに、愛ゆえに…」
- ・2009年 1月 松江市総合文化センタープラバホール：島根：音楽絵巻「松江城今昔秘話」
- ・2009年 2月 びわこビジターズビューロー（開催地は江戸東京博物館）
東京：ひこにゃんのてくてく「歴史街道」
- ・2009年 2月 日本郵船「飛鳥Ⅱ」：南太平洋グランドクルーズ
音楽絵巻「大江山奇談。鬼の道に、横道なし」
- ・2009年 3月 丹波の森公苑ホール：兵庫：創作講談と音楽のコラボレーション「恋路の丹波刀旅」

＊(追記:講談による文化振興)

上記の「音楽絵巻」の公演実績には、実際には音楽の演奏をしていないものもある。例えば2009年度10月に三重県伊賀市で催された「講談ウォーク」は、伊賀の町を歩きながら順番に歴史的な建物などを見学し、そこで町ゆかりの人物を題材にした創作講談を聞くというものだった。またその題材となった武将をテーマに、地域の高校生書道部の生徒が字を選び作品を制作。その展示もした。「音楽絵巻」から派生した日本テレマン協会の新しい「町づくり企画」であり、団体の「人格」を明確にする上で特筆すべき企画であったと思われる。

伊賀市「講談ウォーク」の様子



地域の文化振興

2-2 うえまちコンサート

NPO法人まち・すまいづくりは「住んで楽しいまちづくり」をテーマにコーポラティブ住宅の推進と、市民参加のセミナーなどの開催を手掛けている団体。活動の本拠は上町台地周辺地域で、地域密着型の情報伝達媒体となる『うえまち』も発行している。

そして更なる魅力あるまちづくりの促進を求めて、まち・すまいづくりは2008年よりタウンコンサートを始めた。「うえまちコンサート」と題されこのシリーズは、会場を上町台地にある神社、寺、博物館、能楽堂…など様々な「集いの場」においてのが特徴。日本テレマン協会のヴァイオリン奏者・中山裕一が第1回公演より出演。第3回公演より協会としても正式に「協力」という形で参加することになった。

(2009年度の公演)

2009年4月5日 第5回うえまちコンサート
「お花見をバロックで」
会場：玉造稲荷神社 参集殿
出演：ターフェル・クインテット
MC/中山裕一

2009年7月25日 第6回うえまちコンサート
「バロック音楽を博物館で」
会場：大阪歴史博物館 講堂
出演：ヴァイオリン/中山裕一
フルート/森本英希
弦 楽/テレマン室内オーケストラ

2009年10月18日 第7回うえまちコンサート

ヘンデル没後250年記念特別企画「中山 裕一 バロックヴァイオリンの世界」
会場：一心寺 三千佛堂
出演：ヴァイオリン/中山裕一
チェロ/曾田 健
チェンバロ/高田泰治

2010年1月17日 第8回うえまちコンサート

「能舞台で聴くリュートの愉しみ」
会場：山本能楽堂
出演：リュート/高本一郎
ヴァイオリン/中山裕一

2-3 平野区の「第九」

2000年より一般市民の希望者を公募し合唱団をつくり、「五カ年計画」でベートーヴェン作曲の交響曲第9番を指導。毎年達成したところまでを発表し、5年後には最後まで歌えるようにするという、直接的に「地域の文化意識の向上」を実現させようという企画。すでに最初の「五カ年計画」は達成され、その結果に対する市民の喜びは大きく、2006年度より第二次の「五カ年計画」が継続され、現在は「第九」のほかにヘンデルの「メサイア」(抜粋)にも着手している。

2009年度の公演は12月18日にコミュニティプラザ平野にて開催され、好評のうちに終わった。

2-4 近江八幡市の文化施設を利用した活性化事業

2009年度近江八幡市では文化施設活性化事業実行委員会を立ち上げ、市内にある文化施設を利用したイベントを開催した。日本テレマン協会はこの事業の大半に関わり、三つの公演を実施。いずれも「満席」となり、当事業の目的達成の一助となった。

(公演内容詳細)

2009年9月5日(土) 公演会場：かわらミュージアム

公演名称：鳥のコンサート

出演：フルート/森本英希

リュート/高本一郎

2009年10月12日(月・祝) 公演会場：旧伴家住宅二階広間

公演名称：音楽絵巻「一柳満喜子伝」

出演：講談/旭堂南左衛門

フルート/森本英希

リュート/高本一郎

2010年2月21日(日) 公演会場：旧伴家住宅一階研修室

公演名称：ひいなもほほえむチェンバロの響き

出演：チェンバロ/中野振一郎

3：教育

3-1 日本テレマン協会の学校公演

日本テレマン協会は発足以来「子供向け」ではなく「子供のための」を基本コンセプトに各地で学校公演を開催してきた。「クラシック音楽の魅力をもつ日本の文化として定着させる」という目的意識を強くもつ団体だけに、そこから派生していった現象も多い。例えばリコーダーの魅力を生徒たちに知らせようと工夫した「野菜笛」。そしてそこをヒントに生まれた神谷徹の「ストロー笛」は、いまや「ストローおじさん」として全国の子供に愛されている。その原点ともいえるのが「テレマンの学校公演」であり、現在もその空気を保ちつつ、ヴィヴァルディ「四季」、パッヘルベル「カノン」などの名曲を披露している。こういった公演を聞き、実際に演奏家を志す生徒も生まれている。楽団前主任の上塚憲一などはその一例であるといえる。

また最近では講談によって音楽家像を描き、音からだけではなく、知識から音楽に親しんでもらおうという試みも実施。今年度も複数の学校で公演した。

2009年度も前年度同様、文化庁の「本物の舞台芸術体験事業」への参加が認められた。また昨年度同様豊岡市の小学校を少数のメンバー（1～2名）で訪問・公演した。今年度も豊岡市に関してはヴァイオリン奏者松原優子による演奏を行った。

ただ今年度は新型インフルエンザの流行により、多くの学校で公演日程を変更し、中には次年度に変更された公演もあった。

昨年度の公演をきっかけに始まった高津高校のアンサンブル部へのボランティア指導は、生徒との交流を深め、現在入部生徒数が増えているという報告を受けている。

教育

文化庁「本物の舞台芸術体験事業」での様子



実際に子供に触ってもらうことも



ヴァイオリンとヴィオラの比較



生徒のタクトに忠実に演奏する



シャボン玉を飛ばすストロー



さまざまな楽器との共演



延原自身による生徒とのコミュニケーション

(2009年度に出演した学校公演)

- ・ 4月27日 神戸市立灘小学校 (県民芸術劇場)
- ・ 5月7日 神戸市立大池小学校 (県民芸術劇場)
- ・ 5月12日 稲美町立母里小学校 (県民芸術劇場)
- ・ 6月11日 神戸市立雲中小学校 (県民芸術劇場)
- ・ 6月12日 三田市立つつじが丘小学校 (県民芸術劇場)
- ・ 9月14日 府中市立府中小学校 (本物の舞台芸術体験事業)
- ・ 9月15日 庄原市立総領小学校 (本物の舞台芸術体験事業)
- ・ 9月16日 倉吉市立上灘小学校 (本物の舞台芸術体験事業)
- ・ 9月17日 鳥取市立気高中学校 (本物の舞台芸術体験事業)
- ・ 9月17日 鳥取市立南中学校 (本物の舞台芸術体験事業)
- ・ 9月18日 鳥取市立鳥取盲学校 (本物の舞台芸術体験事業)
- ・ 9月25日 岡山市立操南小学校 (本物の舞台芸術体験事業)
- ・ 9月28日 三原市立本郷中学校 (本物の舞台芸術体験事業)
- ・ 10月1日 姫路市立砥堀小学校 (県民芸術劇場)
- ・ 10月2日 神戸市立宮川小学校 (県民芸術劇場)
- ・ 10月5日 萩市立須佐中学校 (本物の舞台芸術体験事業)
- ・ 10月6日 防府市立小野中学校 (本物の舞台芸術体験事業)
- ・ 10月6日 防府市立桑山中学校 (本物の舞台芸術体験事業)
- ・ 10月7日 下松市立豊井小学校 (本物の舞台芸術体験事業)
- ・ 10月7日 姫路市立白鳥小学校 (県民芸術劇場)
- ・ 10月8日 光市立室積小学校 (本物の舞台芸術体験事業)
- ・ 10月8日 八条小学校 (豊岡)
- ・ 10月8日 新田小学校 (豊岡)
- ・ 10月9日 合橋小学校 (豊岡)
- ・ 10月10日 竹野南小学校 (豊岡)
- ・ 10月10日 五荘小学校 (豊岡)

- ・10月13日 斐川町立斐川西中学校（本物の舞台芸術体験事業）
- ・10月14日 雲南市立西日登小学校（本物の舞台芸術体験事業）
- ・10月14日 雲南市立木次小学校（本物の舞台芸術体験事業）
- ・10月14日 資母小学校（豊岡）
- ・10月14日 高橋小学校（豊岡）
- ・10月15日 奥出雲町立阿井小学校（本物の舞台芸術体験事業）
- ・10月15日 奈佐小学校（豊岡）
- ・10月15日 中筋小学校（豊岡）
- ・10月16日 相生市立双葉小学校（県民芸術劇場）
- ・10月19日 呉市立豊島小学校（本物の舞台芸術体験事業）
- ・10月20日 柳井市立柳井南中学校（本物の舞台芸術体験事業）
- ・10月21日 広島市立荒神町小学校（本物の舞台芸術体験事業）
- ・10月21日 広島市立古田小学校（本物の舞台芸術体験事業）
- ・10月22日 岩国市立美和中学校（本物の舞台芸術体験事業）
- ・10月30日 城崎小学校（豊岡）
- ・10月30日 港東小学校（豊岡）
- ・10月31日 港西小学校（豊岡）
- ・10月31日 三江小学校（豊岡）
- ・12月7日 西宮市立樋ノ口小学校（県民芸術劇場）※2回公演
- ・12月22日 神戸市立東須磨小学校（県民芸術劇場）

2010年

- ・1月15日 上牧第二中学校音楽鑑賞会
- ・1月22日 猪名川町立白金小学校（県民芸術劇場）
- ・2月11日 多可町立八千代北小学校（県民芸術劇場）
- ・3月3日 千里山グレース幼稚園 ひなまつりコンサート

（参考：これまでの教育的活動）

日本テレマン協会の学校公演のあゆみの中で特筆すべき公演としては以下の三つが挙げられる。

1. 生徒の参加する演奏会：

- ・中学校の生徒全員で第九を歌って卒業するという公演。
- ・学生の中でピアノの上手な人をソリストに迎えて協奏曲を演奏するという公演
- ・ステージにリコーダーを吹く生徒を何人か並べて演奏 など

2. 「不登校児童」のための演奏会：

- ・精神的に学校に行けないいわゆる「不登校児童」のための学校公演

3. 重度の障害をもつ子供のための演奏会

- ・重度の障害をもった子供を専門にして歯科医・西田百代氏が主催。「なかなか引っ込みがちな障害者ですが、そんな彼らに、あるいはその保護者の方に年に一度はホテルの高級ディナーを、音楽とともに楽しんでほしい」…そんな発想で始まった会。会場は大阪市内の有名なホテル。15年継続し2003年に活動は終了。

3-2 大阪市ユースオーケストラの指導・育成

延原武春は1980年代よりゲルハルト・ボッセらとともに大阪市ユースオーケストラの団体・奏者の育成に従事し、これまでに漆原啓子やテレマン室内オーケストラメンバーの中山裕一など多くの演奏家を輩出してきた。現在でも延原のほか、テレマン室内オーケストラの奏者による指導・教育は継続されている。

(2009年度の活動)

2009年9月20日 大阪市ユースオーケストラ 第39回定期演奏会
 会場：大阪市立こども文化センター
 出演：指揮／延原武春、中山裕一
 曲目：メンデルスゾーン／ヴァイオリン協奏曲
 ベートーヴェン／交響曲第3番「英雄」

3-3 アマチュア団体の指導・育成

①フィルハーモニア福岡：2000年夏に福岡市内の大学オーケストラ出身者が結成したアマチュア管弦楽団。延原武春はその結成当初より指導・育成にあっている。現在は参加者も増え約50名が在籍。年二回のペースで定期演奏会を続けている。

今年度の定期演奏会（2010年2月28日／会場：アクロス福岡）においても延原が指揮。ブラームス「交響曲第1番」、モーツァルト／交響曲第35番「ハフナー」、モーツァルト：「フィガロの結婚」序曲を好演。

②コードリベット・コール：1952年に櫻井吉明氏が結成した大阪のアマチュア合唱団。1971年の共演以来日本テレマン協会との関係を深め、櫻井氏亡き後、代表の延原武春、テノールの畑儀文が指導・育成に携わっている。

(2009年度の活動)

2009年5月17日 第69回教会音楽連続演奏会
 会場：東梅田教会
 曲目：J. S. バッハ 神の時こそいと良き時 (BWV106)

3-4 NEC古楽レクチャー

1997年よりNECが社会貢献の一環として始めたレクチャーシリーズ。企画発足当初より日本テレマン協会は参加し、大阪・東京を中心に、バロック楽器のこと、作曲家のこと、教育の現場における演奏、講談とのコラボレーションなど、様々な視点から構成されたレクチャーを開いてきた。残念ながら当レクチャーシリーズも今回で最終回となった。

今年度は延原武春が9月に大阪フィルハーモニー交響楽団を指揮することをテーマに、原典的なアプローチによるバッハ、ベートーヴェン、ブラームスとは、一体どういう視点に基づいたものなのかにメスを入れることとなった。司会進行は関西若手評論家・寺西肇氏。多くの著書を世に出し「古楽」という分野の第一人者でもある彼が、独特の視点で延原およびテレマンが行ってきたドイツ音楽へのアプローチについて解説。延原へのインタビューや高田泰治の実演なども含んだ、最終回を飾るのに適した内容の濃いレクチャーだったと言える。

(2009年度の内容)

2009年9月18日 会場：大阪倶楽部4階ホール
 第31回 NEC古楽レクチャー
 時系列に見るドイツ音楽解釈～原典的アプローチと3B
 延原武春が語る「時系列に見るドイツ音楽解釈」
 講師：寺西肇(音楽評論家)
 ゲスト：延原武春(指揮者)・高田泰治(チェンバロ、フォルテピアノ奏者)

4：文化的ライフスタイルの提案と実践

4-1 いずみホールエリアの活性化モデルと淀屋橋WESTの情報発信

「演奏会」を町の活性化のきっかけとする、あるいは「演奏会」そのものが人々の生活の中に自然に溶け込んでゆく。そんな方法を様々な実験を通し、「モデルケース」として公開してゆくことで情報を集め、演奏会が定着・継続しやすい地域社会の在り方を考えてゆくという活動を日本テレマン協会は2006年度から開始している。

2009年度の活動はいずみホールを舞台とした年二回の定期演奏会、および大阪倶楽部で開催しているジャズやシャンソンの公演を素材として、OBPの店舗とODONAの完成によって急激に店舗の増えた淀屋橋WESTの協力のもとで以下のような試みを行った。

- ・演奏会開催一ヶ月前から当日までの期間に、提携店舗を利用した客は清算時に演奏会割引カードをもらう。演奏会場でカードを提示することにより割引価格で演奏会を楽しめる。
- ・提携店舗ではその演奏会の曲目が入ったCDを期間中BGMとして使用（ただし有線放送を利用している店舗もあるのでCD使用は任意）
- ・希望店舗においては演奏会終了後、チケットの半券を提示することでサービスを提供。

この試みの最大の目的を要約すると以下ようになる。

- ・演奏会は本来チケットを買って会場に行かなければ内容が分からないものであるが、その内容をCDのBGMという形で先に会場周辺にて公開。
- ・多くの店舗で同じ音楽が流れているので、おのずと人々の興味を引き付けるのではないか。
- ・例えば地方の会館にこの試みを用いた場合、それまで文化事業にあまり関心のなかった近隣住民の中に「演奏会は残念ながら今年は行かなかったが、どんな内容をしていたのかは知っている」という層を増やすことが出来るのではないか。
- ・そういった仕掛けが地域の文化へのモチベーションを上げるのならば、まだまだ地方の文化振興に役立つヒントを考えることが出来るのではないか。

（宿泊施設）

ホテルニューオータニ
ホテル京阪京橋
モントレールスール大阪

（店舗）

ジュンク堂書店大阪本店
551蓬莱京橋店・JR大阪店ほか

（エリア）

淀屋橋WESTエリア 43店舗
OBPエリア

- ・Kumakoそんで熊五郎
- ・芦刈
- ・心斎橋浪花そば
- ・京橋くら
- ・明光メガネ
- ・月日亭
- ・勝太郎
- ・牛亭りよん
- ・めん坊
- ・やまや
- ・ぼてぢゅう
- ・香港食卓
- ・燦

4-2 大大阪レトロナイト事業としての活動

「大阪ナイトカルチャー事業」の発展したものとして、大阪商工会議所が大阪市とともに「夜の大阪観光をじっくり楽しんでいただく」ことを目的とした事業。舞台は大阪市に残る近代建築物。他府県からの観光客にもアピールしたものとなっている。日本テレマン協会はマンスリーコンサートの会場である大阪倶楽部を中心に、この事業にも積極的に参加している。

(2009年度の参加公演)

- 2009年7月14日 大阪倶楽部：シャンソンコンサート（主催：日本テレマン協会）
- 2009年8月4日 大阪倶楽部：マンスリーコンサート（主催：日本テレマン協会）
- 2009年11月13日 大阪倶楽部：マンスリーコンサート（主催：日本テレマン協会）
- 2009年12月10日 大阪倶楽部：クリスマスコンサート（主催：日本テレマン協会）
- 2010年3月11日 大阪倶楽部：高田泰治フォルテピアノリサイタル（主催：日本テレマン協会）

5：チャリティー協力

日本テレマン協会とチャリティー

日本テレマン協会はこれまで阪神大震災やニューオリンズのハリケーン、福知山線脱線事故メモリアルコンサートのほか様々な災害へのチャリティーコンサート活動を続けてきた。クラシック音楽のコンサートに対する社会の受け入れ方が年々変化しつつある中で、人と人をつなぐ場であるという理念を協会としては今後も大切にしたい。そういった意味で「チャリティーコンサート」への参加を積極的にすすめてゆく考えである。

2009年度のチャリティーコンサートおよび募金活動の参加は以下の通りである。

- 1：マンスリーコンサートにおけるユニセフ募金活動への協力
- 2：JVC国際ボランティアセンターの主催による連続公演

※JVC国際協力コンサートとは

日本国際ボランティアセンター（JVC）の活動を応援するためのベネフィットコンサート。コンサートの収益をJVCに寄付される。実行委員長アイネス・M・バスカビルの「美しい楽曲『メサイア』で、JVCのためのチャリティーコンサートを開きたい」という呼びかけに対しボランティアが集まり、1989年「JVCコンサート実行委員会」が発足。以来東京では21回、大阪でも16回の公演が催されてきた。日本テレマン協会は1994年よりこのコンサートに参加。2009年は昨年に引き続き東京・大阪両公演に出演した。

(2009年度のJVC国際協力コンサート)

12月5日 第16回大阪公演 ヘンデル『メサイア』

会場：いずみホール

共演合唱団：コードリベット・コール

12月12日 第21回東京公演 バッハ『クリスマス・オラトリオ』

会場：昭和女子大学人見記念講堂

共演合唱団：JVC合唱団

6：その他

6-1 京都国立博物館におけるコンサート

2000年より国立博物館の主導の下、博物館を舞台に定期的な演奏会を展開している。東京、京都、奈良、それぞれに地域にあった文化の発進と地域文化の振興を目指すという目的。そして日本に来る海外の観光客の多くはクラシック音楽のコンサートを目的にはしていないが、偶然足をむけた国立博物館で催しに出会い「日本のクラシック音楽の文化の力」を知らせるという目的を持つ。この二つの目的を主眼におき、協会としては協力ということで企画、公演を行ってきた。

2009年も京都国立博物館主催において以下の2公演を実施。特に6月公演はFMCOOLOがライブを収録し7月に放送した。

- ・ 2009年6月6日：京都国立博物館 特別展示館 中央ホール
「バロックコンサート」
プログラム：J.S.バッハ／2つのヴァイオリンのための協奏曲
G.Ph.テレマン／3つのヴァイオリンのための協奏曲
A.ヴィヴァルディ／「四季」全曲
出演：指揮/延原武春
ヴァイオリン/浅井咲乃
弦楽/テレマン室内オーケストラ
MC/今井由美

- ・ 2010年2月20日：ハイアットリージェンシー京都
特別展覧会「THEハプスブルク」開催記念企画
「音楽とスイーツで楽しむもう一つのハプスブルク展」
プログラム：J.ハイドン／神よ、皇帝を守りたまえ
F.クーラン／葦
J.Ph.ラモー／鳥たちのさえずり 他
出演：中野振一郎

2009年度版 日本テレマン協会 社会的活動報告

発行 日本テレマン協会

〒530-0002

大阪市北区曾根崎新地2-1-17

電話 06-6345-1046

FAX 06-6345-1045

E-MAIL : tij@cafe-telemann.com

URL:<http://www.telemann.ws/>